様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 21 年 5 月 29 日現在

研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2006～2008
課題番号：18390585
研究課題名（和文）　日本家族の家族機能アセスメントモデルの開発と家族看護への臨床応用の確立
研究課題名（英文）　The Development of an Assessment Model for Family Functioning of the Japanese Family and Establishing Its Clinical Applications in Family Health Care Nursing

研究代表者
法橋　尚宏（HOHASHI NAOHIRO）
神戸大学・大学院保健学研究科・教授
研究者番号：60251229

研究成果の概要：日本独自の家族理論・モデルとして，新しく「家族同心球環境モデル」を提唱した．さらに，この理論に立脚して，家族インタビューを中心として家族をアセスメントするための「家族環境アセスメントモデル」，家族機能レベルを評価するための自記式質問紙である「家族環境アセスメント尺度」などを開発した．これらから家族像と家族の症候を明確にすることにより，日本人家族の家族機能を維持・向上する家族看護実践に応用できることを可能にした．

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2006 年度	3,000,000	900,000	3,900,000
2007 年度	3,000,000	900,000	3,900,000
2008 年度	1,600,000	480,000	2,080,000
総　計	7,600,000	2,280,000	9,880,000

研究分野：医歯薬学
科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学
キーワード：家族看護，家族機能，家族機能アセスメントモデル，エコロジカル家族機能尺度，家族看護インタビュー，島嶼，中国（香港）

1．研究開始当初の背景

近年，わが国における家族の変動，それにともなう家族問題（夫婦の不和や離婚の増加，子育てを代表とする家族機能の衰え，親子間もしくは夫婦間の暴力，摂食障害や心身症など）が相次ぎ発生しており，家族の研究に対する社会的要請が高まっている．看護学領域においても家族看護学の確立にともない，患者（療養者，利用者など）個人ではなく，その家族全体を看護の対象としてとらえる傾向が強まっている．家族看護(学)は，家族という小集団に対して家族機能を高める援助を行うことを目的としており，最近の家族看護学の発展にともない，わが国でも家族機能をアセスメントする方法論がいくつか構築されてきているが，家族全体を測定することが個人を測定するよりも複雑であるので，家族機能をアセスメントするモデルの開発とその応用法の確立はまだ十分とはいえない現状にある．

研究代表者らは，これまでに家族エコロジカルモデルにもとづいた家族機能尺度 FFFS（Feetham Family Functioning Survey）日本語版Ｉを開発し，長年にわたり，国内外で

さまざまな家族看護学研究を実施してきた．とくに，これまでの成果を基盤として，新しいエコロジカル家族機能尺度SEFF(Survey of Ecological Family Functioning）を開発した．

2．研究の目的

本研究では，これまでに取り組んできた家族機能研究を発展させ，新しい家族理論・モデルを再構築し，それにもとづいた家族機能アセスメントモデルを新しく開発し，家族看護実践への臨床応用を確立することを目的とする．集団主義を背景として家族の絆が強いなどの特徴がある日本社会・文化を考慮した家族理論を開発し，日本家族の家族機能をアセスメントして家族看護実践につなげるために，日本・中国（香港）・アメリカ合衆国（ロサンゼルス）に居住する家族を対象としたクロスカルチャー研究を枠組みとして実施する．

本研究の具体的な目標は，下記の諸点を検討することである．

(1)「家族同心球環境モデル」の開発

日本独自の新しい家族理論・モデルとして，すでに試作してある「家族同心球環境モデル」を再構築し，家族の健康に関連する家族環境をホリスティックに理解するためのモデルを提唱する．

(2)「家族環境アセスメントモデル」の開発

「家族同心球環境モデル」を理論的背景とした家族インタビューを実施形式とし，面接・ビデオ分析を中心とした家族機能のアセスメント方法として「家族環境アセスメントモデル（The Family Environment Assessment Model：FEAM)」を新しく開発する．

(3)「家族環境アセスメント尺度」の開発

「家族同心球環境モデル」にもとづいて家族機能レベルを評価する自記式質問紙である「家族環境アセスメント尺度（The Survey of Family Environment：SFE)」を開発する．

(4)「家族環境アセスメントモデル」の臨床応用

日本の家族の家族機能を的確にアセスメントする方法を確立し，家族機能不全に陥っている家族の早期発見・支援に役立つ方法を明らかにする．

3．研究の方法

対象家族は，国内外（長崎県，兵庫県，香港，ロサンゼルス）の主に養育期・教育期・排出期にある家族とした．質問紙調査への回答はすべて無記名式とした．半構成面接調査，家族インタビューの録音・ビデオ録画にあたって，対象者・家族への倫理的配慮が不可欠であり，倫理的配慮の手続きを厳守して研究を実施した．

(1)「家族同心球環境モデル」の開発

対象家族への半構成面接調査，エスノグラフィー（家族の生活の場所での参加観察など)，家族機能の質問紙調査，過去の研究成果と文献検討，専門家からの知識提供，看護実践の統合などにより，質的・帰納的にすでに試作済みの「家族同心球環境モデル」を再構築する．エスノグラフィーは，日本ではのべ 104 日，香港ではのべ 52 日，ロサンゼルスではのべ 108 日におよんだ．

(2)「家族環境アセスメントモデル」の開発

「家族同心球環境モデル」を再構築する過程で，同時に家族同心球環境モデルにもとづいた家族機能のアセスメント方法として「エコロジカル家族機能アセスメントモデル」を試作し，その真実性を確認した．

(3)「家族環境アセスメント尺度」の開発

「家族同心球環境モデル」にもとづいて「家族環境アセスメント尺度」を試作し（日本語版，その翻訳版である英語版と中文版)，その信頼性と妥当性を確認した．翻訳版の作成は，順翻訳，逆翻訳，表面妥当性の確認，プレテストの過程を経て行う．さらに，Web 版 SFE を Java 言語で開発し，遠隔地からインターネット経由で回答・自動集計できる仕組みを構築した．

(4)「家族環境アセスメントモデル」の臨床応用

国内の専門雑誌『家族看護』（日本看護協会出版会）などを検討し，「家族同心球環境モデル」に準拠した家族の症候（本研究で考案した新しい概念で，家族支援の対象となる家族の問題）を抽出する．そして，FEAM による質的アセスメントならびに SFE による量的アセスメントのトライアンギュレーションを行い，日本の家族の家族機能を的確にアセスメントする方法を確立する．

4．研究成果

(1)「家族同心球環境モデル」の開発

新しく提唱する「家族同心球環境モデル」では，3 つの評価軸（構造的距離，機能的距離，時間的距離）により 3 次元的な論理空間を形成し，5 つのシステム（スープラシステム，マクロシステム，ミクロシステム，家族システム，クロノシステム）が位置づけられる．構造的距離と機能的距離はシステム間の物理的・心理的な関係性，クロノシステムを規定する時間的距離はシステムの経時的な変化を表す．家族システムの内部環境では，家族員が相互作用を行い，その生活を維持している．また，家族システムと外部環境（スープラシステム，マクロシステム，ミクロシステム）は同心球状の入れ子構造になっており，システムが交互作用を行い，その恒常性を維持している．家族の健康とは，「動的な相互作用／交互作用により家族環境に適応する家族の機能状態」であると解釈する．

(2)「家族環境アセスメントモデル」の開発

「家族環境アセスメントモデル」は，家族の健康状態をアセスメントするためのツールとして，「家族環境アセスメント指標（The Family Environment Assessment Index : FEAI）」「家族内部環境地図（The Family Internal Environment Map : FIEM）」で構成した（それぞれ日本語版と英語版を作成）.

「家族環境アセスメント指標」は，家族システムの健康状態をアセスメントするための 37 項目で構成され，それぞれの細目にはアセスメントに有用な質問例が準備されている.37 項目は,スープラシステム(4 項目),マクロシステム (8 項目),ミクロシステム (5 項目),家族システム (16 項目),クロノシステム (4 項目) で構成した. 家族員への 2 時間のインタビューを実施形式とし，録音したインタビューの逐語録から家族機能をアセスメントすることができる.

「家族内部環境地図」は，家族員の関係性を可視的に把握できる様式である. これらから家族の問題現象の所在と内容を明確にして，援助の焦点を定めることができるようにした.

(3)「家族環境アセスメント尺度」の開発

質問紙への有効回答は，日本では 1,996 名（夫 887 名，妻 1,109 名），香港では 357 名（夫 172 名，妻 185 名），ロサンゼルスでは 158 名（夫 72 名，妻 86 名）であった. 日本語版,英語版,中文版のいずれも,信頼性(内的整合性，安定性）と妥当性（基準関連妥当性，構成概念妥当性）が確認でき，家族環境アセスメント尺度が開発できた.「家族環境アセスメント尺度」は 30 項目から構成され，各質問項目に対して「どのくらい満足していますか（満足度：SS)」および「どのくらい重要ですか（重要度：IS)」を 5 段階のリッカートスケールで評価する. 家族支援のニーズをアセスメントするために，SS と IS から家族の「ニーズ得点（NS)」を算出できるのが特徴である.

(4)「家族環境アセスメントモデル」の臨床応用

国内外の文献検討から，「家族同心球環境モデル」に準拠した 17 の家族の症候を抽出し，体系化した. 19 家族を対象として，「家族環境アセスメントモデル」を用いて家族機能をアセスメントした. 同時に，家族の参加観察，SFE の満足度得点（SS）とニーズ得点（NS）による量的な評価から，家族アセスメントの結果の真実性を確認することができ，これらが使用可能であることが確認できた. 家族機能不全に陥っている家族の早期発見，家族援助構造を見いだすことができることが示唆されたので，次段階としては仮称「家族環境支援モデル（The Family Environment Intervention Model : FEIM)」の構築に取り組みたい.

5. 主な発表論文等

（研究代表者，研究分担者および連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 4 件）

①Naohiro Hohashi, Junko Honda, Sarah K. Kong, Validity and reliability of the Chinese version of the Feetham Family Functioning Survey (FFFS), Journal of Family Nursing, 査読有, 14(2), 201-223, 2008

②Naohiro Hohashi, Kyoko Kobayashi, Akiko Takagi, Investigation into children with Prader-Willi syndrome, covering their school lives, quality of life and family functioning of their mothers, Japanese Journal of School Health, 査読有, 50(1), 18-26, 2008

③平谷優子，法橋尚宏，ひとり親家族に関する国内文献の動向と看護学研究の課題，家族看護学研究，査読有，13 (3)，165-172，2008

④本田順子，法橋尚宏，子育て期にある香港人家族の家族機能のエスノグラフィー：家族機能遂行の方略に焦点をあてて，家族看護学研究，査読有，13 (1)，45-52，2007

〔学会発表〕（計 6 件）

①法橋尚宏，本田順子，離島で生活する子育て期家族のケア機能のエスノグラフィー，日本ルーラルナーシング学会第 3 回学術集会，2008 年 9 月 20 日，北海道・札幌市

②西元康世，法橋尚宏，本田順子，平谷優子，妊娠先行型結婚に関する国内文献の動向と家族看護学研究の課題，日本家族看護学会第 15 回学術集会，2008 年 9 月 13 日，神奈川県・藤沢市

③本田順子，法橋尚宏，能勢陽，村上愛実，離島で生活する子育て期の家族を対象とした家族機能のエスノグラフィー，日本家族看護学会第 15 回学術集会，2008 年 9 月 13 日，神奈川県・藤沢市

④Naohiro Hohashi, Junko Honda, Sarah Kong, Development of the Chinese version of the Feetham Family Functioning Survey (FFFS) and evaluation of its effectiveness, 8th International Family Nursing Conference, 2007 年 6 月 5 日, Sukhumvit Soi, Bangkok (Thailand)

⑤Junko Honda, Naohiro Hohashi, Cross-cultural study on family functions and daily time budgets of family members: Comparing Japanese with Chinese dual-income families with children, 8th International Family

Nursing Conference, 2007年6月5日, Sukhumvit Soi, Bangkok (Thailand)
⑥本田順子, 法橋尚宏, 家族機能と家族員の生活活動時間量の通文化研究：大阪府と香港の子育て期にある共稼ぎ家族を対象として,第26回日本看護科学学会学術集会, 2006年12月3日, 兵庫県・神戸市

〔図書〕(計2件)
①法橋尚宏, 本田順子, 平谷優子, Suzanne L. Feetham, EDITEX, 家族機能のアセスメント法：FFFS日本語版Ⅰの手引き, 2008年, 55
②法橋尚宏, へるす出版, 小児看護事典, 2007年, 121-122, 710-711, 711-712

〔その他〕
ホームページ
http://www.familynursing.org

6. 研究組織
(1)研究代表者
法橋 尚宏 (HOHASHI NAOHIRO)
神戸大学・大学院保健学研究科・教授
研究者番号：60251229
(2)研究分担者
濱本　知寿香 (HAMAMOTO CHIZUKA)
大東文化大学・経済学部・准教授
研究者番号：00338609
小林　京子 (KOBAYASHI KYOKO)
神戸大学・大学院保健学研究科・助教
研究者番号：30437446
(3)連携研究者
なし
(4)研究協力者
本田　順子
神戸大学・大学院保健学研究科・大学院生
平谷　優子
神戸大学・大学院保健学研究科・大学院生